

# 6次産業化(農商工連携の効果等)に関する 調査結果

## 調査結果のポイント

- 農業者と商工業者の連携において、農業者は商工業者の「農業への理解」を最も重視…………… P 2
- 農業者は農産物の生産だけではなく、加工・販売・流通にも関わることが売上増加に有効…………… P 3
- 農業者、商工業者ともに約半数が連携で開発した商品の輸出に意欲… P 3
- 農業者では、農畜産物の規格・量の確保や価格設定が未解決の課題… P 4

### <調査要領>

#### 1 調査目的

農商工連携に取り組む農業者および商工業者を対象に、農商工連携を行う目的、連携のきっかけ、役割、連携の効果等についてアンケート調査を行うとともに、特徴的な農商工連携を実施している農業者・商工業者へのヒアリング調査を実施し、連携の特徴や課題などを明らかにする。

#### 2 調査方法

郵送によるアンケートおよび農業者・商工業者へのヒアリング

#### 3 調査時期

平成25年9月～平成26年1月

#### 4 調査対象

##### ①アンケート調査

六次産業化・地産地消法による「認定事業計画」及び農商工等連携促進法による「農商工等連携事業計画」の認定を受けて農業と商工業の連携に取り組んでいる日本公庫融資先の農業者・商工業者（食品事業者等）236先（農業者:163先、商工業者：73先）

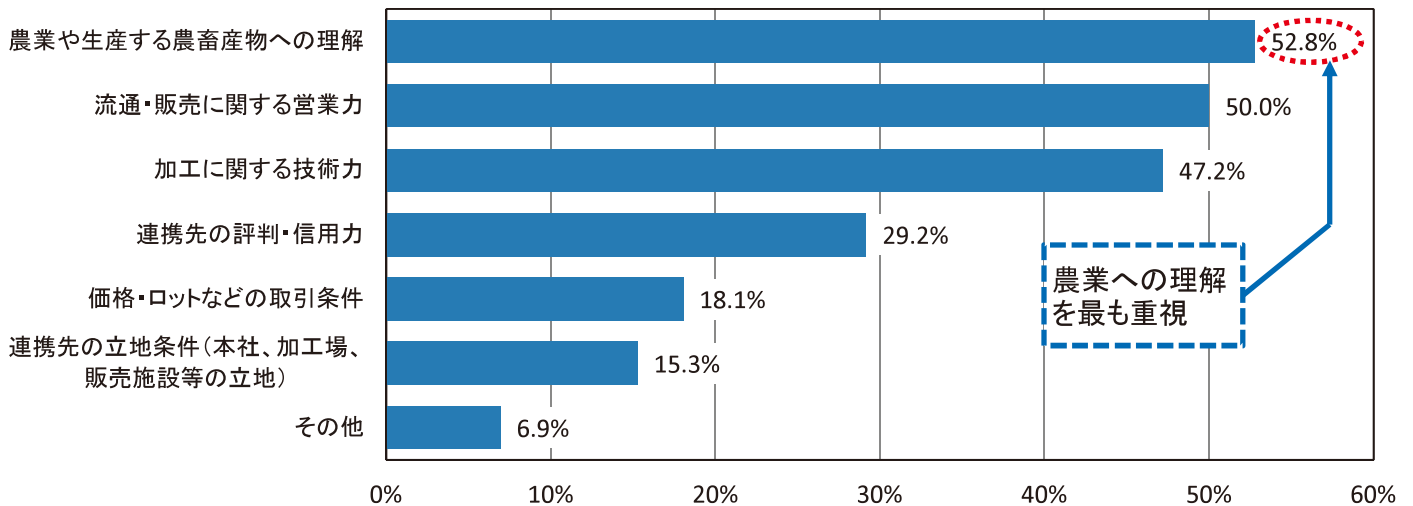
##### ②ヒアリング調査

上記アンケート調査の調査先および連携先（9組・15先）

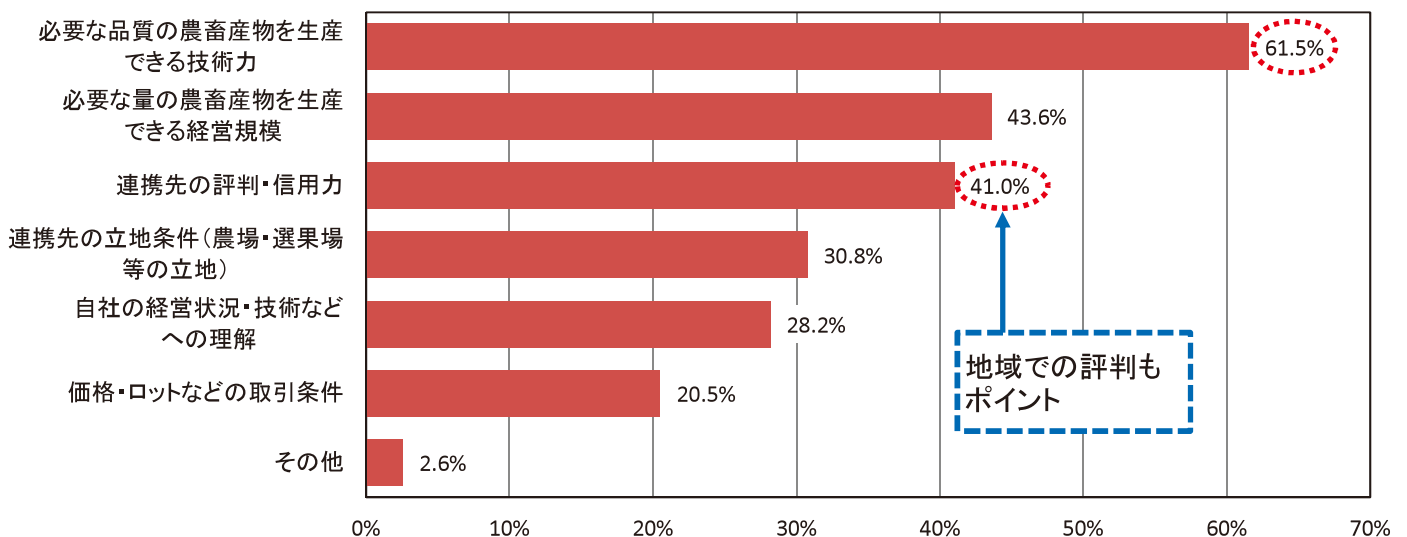
## 農業者は商工業者の「農業への理解」を最も重視

- 連携先を選んだ理由について聞いたところ、農業者では商工業者の「農業や生産する農畜産物への理解」を挙げる回答が最多に。
- 商工業者では、農業者の「技術力」、「経営規模」に加え、「連携先の評判・信用力」を挙げる回答が続いた。

【農業者：連携先を選定した理由（3つまで選択）】



【商工業者：連携先を選定した理由（3つまで選択）】



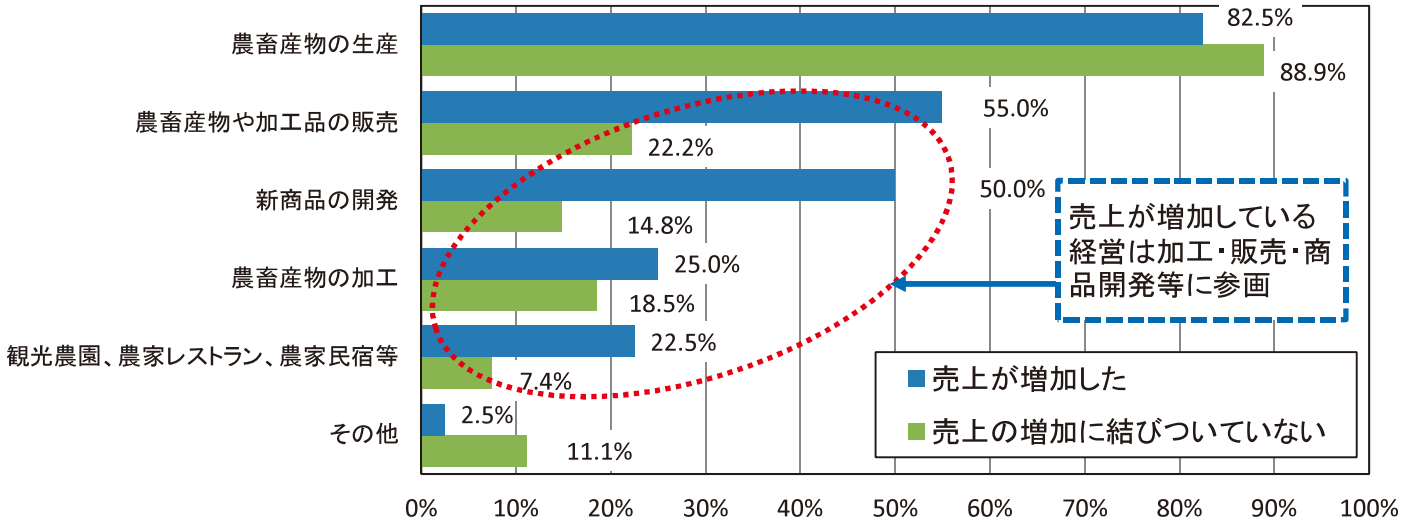
### ★ヒアリング先のコメント

- ・ 枝豆の品種選定にあたり、収穫時期について商工業者に考慮してもらった（農業者）。
- ・ 高品質な野菜を生産し品種改良にも積極的な農家との評判を踏まえ連携（商工業者）。
- ・ 元役員の地元で品質の良い豚肉を生産していたことから取引を開始（商工業者）。

## 農業者は加工・販売・商品開発への関わりが売上増のポイント

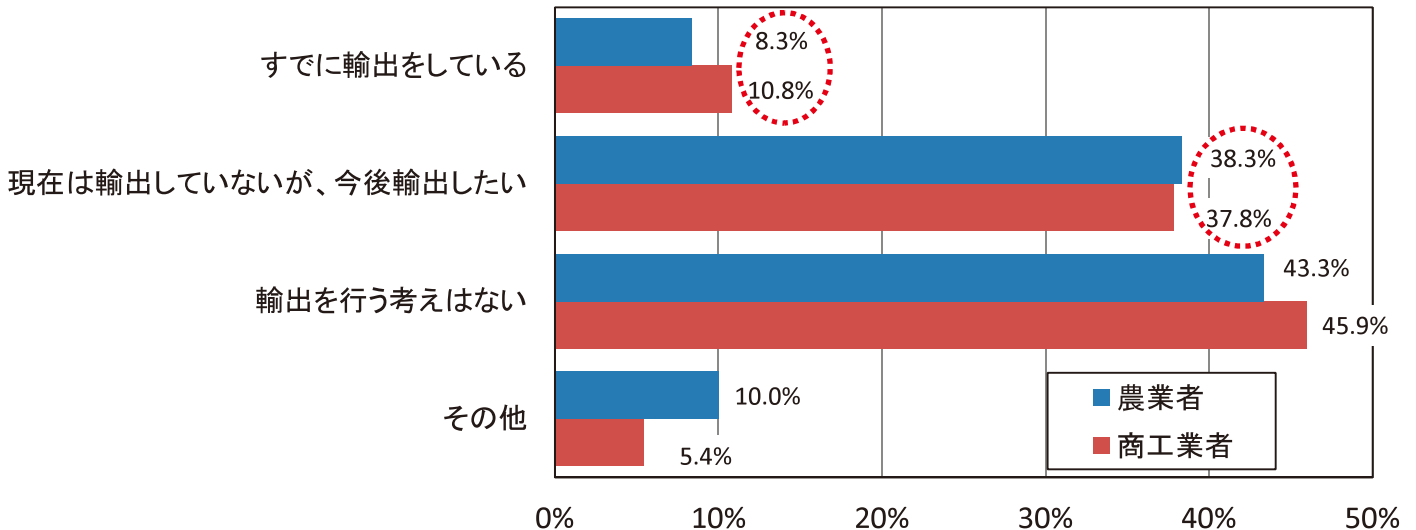
○農業者は農産物の生産だけではなく、加工・流通・商品開発にも関わることが、農業者自身の売上増加に有効。

【農業者：売上状況別の調査先が担当する役割（複数選択）】



## 農業者、商工業者ともに約半数が連携で開発した商品の輸出に意欲

【輸出に関する意向（1つ選択）】



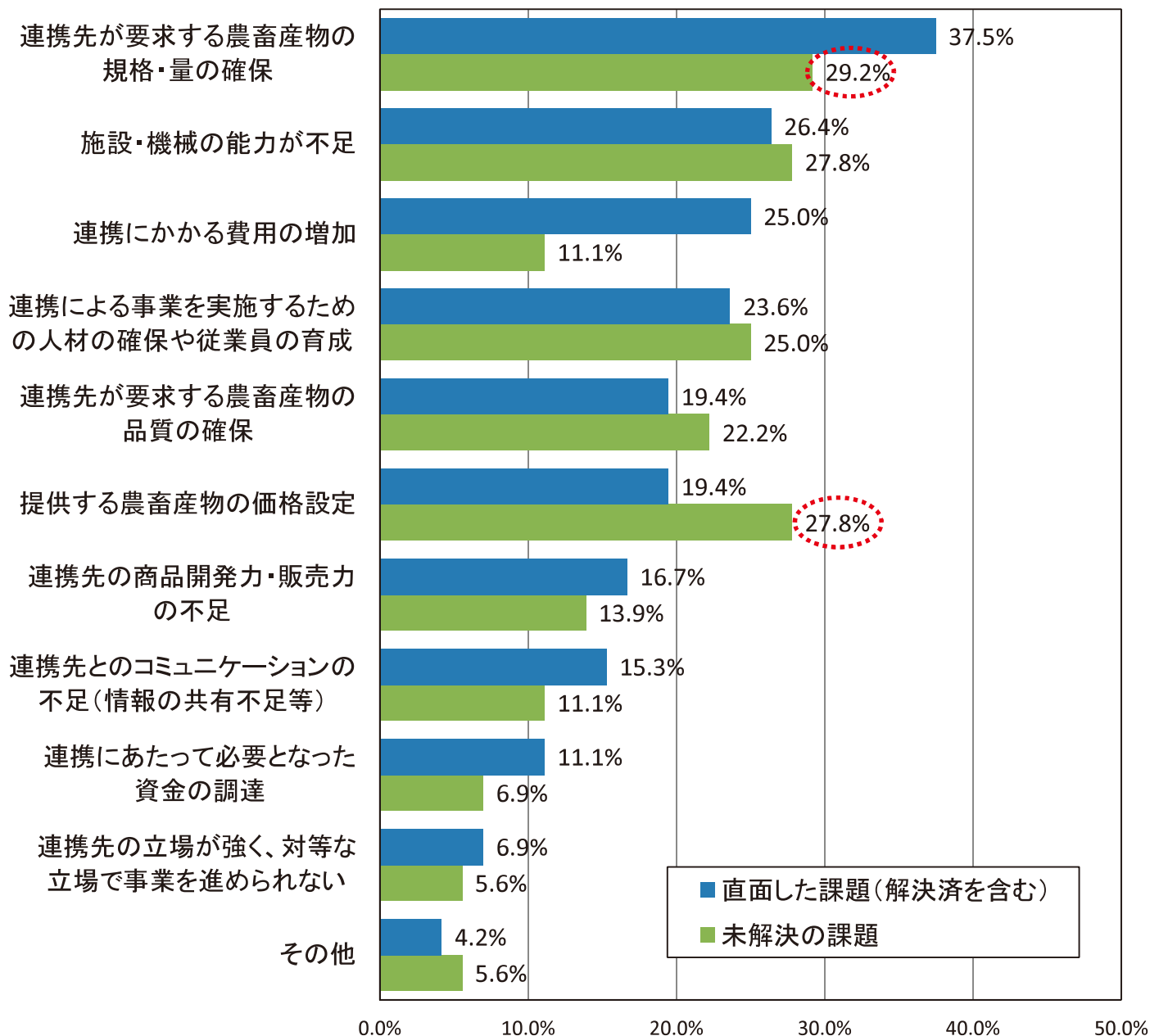
### ★ヒアリング先のコメント

・連携で開発した介護食向け卵焼きの製造だけでなく、今後は健常者向け商品も開発し、アジア地域への輸出も視野に入れている（商工業者）。

## 農畜産物の規格・量の確保、価格設定が未解決の課題

○農業者において、連携先が要求する農畜産物の規格・量の確保や提供する農畜産物の価格設定等が未解決の課題として残る。

【農業者：連携における課題（3つまで選択）】



### ★ヒアリング先のコメント

・商工業者から提示される野菜の買取価格は、農業生産における資材費などのコスト上昇を踏まえた価格設定となっているなど、根拠が明確である（農業者）。